

- ◎御講演 「金正男氏暗殺と相次ぐミサイル発射 ～北朝鮮で何が起きているのか？」
立命館大学客員教授 平井 久志 氏
- 【オピニオン】「日本外交の150年」の刊行に向けて
国立公文書館アジア歴史資料センター長 波多野澄雄 氏
- 【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



日本外交協会報

The Society for Promotion of Japanese Diplomacy

発行:(一社)日本外交協会 URL <http://www.spjd.or.jp>

平成29年 4月20日号

「金正男氏暗殺と相次ぐミサイル発射 ～北朝鮮で何が起きているのか？」

立命館大学客員教授

平井 久志 氏

(平成29年3月31日 於日本記者クラブ)



今日は朝鮮半島でいろいろなことがあった日です。韓国では朴槿恵前大統領が逮捕されました。韓国の大統領経験者で3人目の逮捕者です。金正男さん暗殺事件では昨夜、遺体がマレーシアから搬出され、駐マレーシア北朝鮮大使館にいた重要容疑者とされた人たちが北京に飛び立ちました。北朝鮮の国家ぐるみの犯罪と見られていますが、刑事手続きを進めるうえで、マレーシア警察は苦しい状況になったと思われます。さて、今日は核・ミサイル、金正男さん暗殺事件と、今後の朝鮮半島情勢についてお話ししたいと思います。

北朝鮮は核搭載ノドンミサイル開発に成功した？

最初に核の問題です。北朝鮮が5回行った核実験の一覧表を見てください。韓国合同参謀本部関係者は昨日、6回目の核実験の可能性が大きいと警告し、韓国外務省も核実験やICBM(大陸間弾道ミサイル)発射などの重大な挑発が行われる可能性が強いと言っています。商業衛星で北朝鮮の核実験場、豊溪里をウォッチしている米国の研究者グループ「38ノース」は70～100人の集団が集結しており核実験の可能性もあると言っています。

北朝鮮は昨年、核実験を2回行っていきます。1回目は水爆実験だと主張しましたが、韓国やアメリカによると、爆発規模はTNT火薬換算で約6キロトンと見ており、こんな小規模爆発の水爆はないので、強

搭載可能な小型核弾頭は保有していない」と見ていました。ところが、昨年9月の実験後に米国防総省報道官が「小型化に成功したとする北朝鮮の主張は真実とみなす必要がある。その能力を既に保有しているという前提に立って、できるだけ早くミサイル防衛の態勢を構築する」と従来とは真逆のコメントを出したのです。北朝鮮はまだICBMは保有していないだろうが、日本や韓国を射程に入れた射程1000キロトンのスカッドERや射程1300キロトンで日本列島全てを射程に収めるノドンミサイルに搭載する核弾頭小型化にはすでに成功しているのではないかと、アメリカは考えているようです。

6回目の核実験があるとすれば、どういう核実験になるかですが、昨年9月からわずか8カ月間で北朝鮮の核兵器技術が急速に進展したとは考えにくい。そこで一つの見方は4回目の実験で十分に成功しなかった増幅核分裂技術実験、過去2回の核実験の10倍以上、100～150キロトン規模の実験をやろうとしているのではないかとこのものです。広島に落とされた原爆は15キロトン程度の爆発規模でしたから、その約10倍の爆発規模です。もう一つの見方はプルトニウムなどの核物質の比率を変えたり、装置をいじったりして爆発規模の変化をチェックして、核弾頭をどうするかを彼らなりに考えながら非常に短期間に何回も核実験をやる。過去にパキスタンがやった手法ですが、北朝鮮もそれにならうのではないかとこの

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。

ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。